



「読書の秋」到来

「読書の秋」の由来は、中国・唐の時代の詩人、韓愈が息子の符に読書の大切さを教えるために詠んだ『符読書城南』が元になっていると言われています。その詩にこんな一節が登場します。

時秋積雨霽 新涼入郊墟
燈火稍可親 簡編可卷舒

ときあき せきう は しんりょうこうきよ い
時秋にして積雨霽れ 新涼 郊墟に入る。
とうか しょうや した かんべんけんじょ
燈火 稍 く親しむべく 簡編卷舒すべし。

訳すと「秋になり長雨が上がり空が晴れ、涼しさが丘陵にも広がる。灯火(ろうそくの火)にもようやく親しめるようになり、書物を広げて読むのに丁度よい。」といったところでしょうか。この漢詩から「燈火親しむべし」という言葉が伝わり、「読書の秋」というイメージの元になったのだとか。

また、日本では10月27日から文化の日を挟んで2週間が「読書週間」とされています。種子島中央高校でも11月11日～22日は校内読書週間となっています。ぜひ皆さんも、今年の読書週間のキャッチコピー「この一行に 逢いにきた」と思える1冊を探してみませんか。



読書週間の歴史

終戦まもない1947年、「読書の力によって平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から第1回『読書週間』が開催されました。そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

(公益社団法人読書推進運動協議会HPより一部抜粋)

9月の貸出状況

9月	貸出冊数
1年	49
2年	9
3年	90
全体	148冊

今年度も折り返し。1年後はどんな自分になっているでしょうか？自分の進路を考えたり、考えを深めたりするのに読書はとても身近で効果的な手段です。まずは1冊読んでみましょう。



2024年度 鹿児島県の高校図書館司書が選ぶ 生徒へおすすめの本 BEST 5



先日、「鹿児島県の高校図書館司書が選ぶ生徒へおすすめの本」が発表されました。これは鹿児島県内の高校図書館司書62人が、2023年1月～2024年3月までに発行され、自校の図書館にて購入した本(漫画も含む)の中から、自身が読んで生徒におすすめしたいと思ったものです。

今回はその中でもBEST5をご紹介します。また、図書館にはおすすめ本の全リスト(司書たちのコメント付き)と本校蔵書を展示していますので、何を读もうか迷った時には参考にしてくださいね！



『成瀬は信じた道をいく』
宮島未奈 著／新潮社刊

2位



『世界でいちばん透きとおった物語』
杉井光 著
新潮文庫刊

3位



『成瀬は天下を取りにいく』
宮島未奈 著
新潮社刊

4位

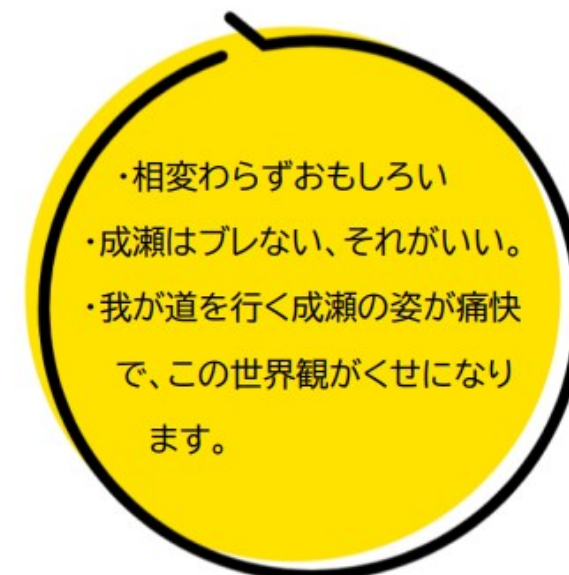


『だんドーン 1巻』
泰三子 作
講談社刊

5位



『リカバリー・カバヒコ』
青山美智子 著
光文社刊



・相変わらず面白い
・成瀬はブレない、それがいい。
・我が道を行く成瀬の姿が痛快で、この世界観がくせになります。